

清郷工作と討伐

千葉県 高山 甬

私の家族は、入隊時父親は亡くなっており母を中心に八人の兄弟でした。長兄を亡くし、男二人、女五人の七人兄弟で私が三番目でした。家業を営んでおり、青年学校で学びました。

昭和十八年一月、現役兵として近衛歩兵第三連隊に入隊しました。十日後の一月三十一日に東京を出発し、二月一日に朝鮮の釜山に上陸しました。千葉、東京の現役兵五〇〇人を主体とする郷土部隊です。

小休止の暇もなく鉄路を利用し、中支の徐州へと向かいました。徐州で予第二三二部隊に配属になり、第五十二部隊豊田中隊の問口小隊員として現地教育を受けました。教育二カ月目に部隊が移動し、西上海で再教育を受け、その後東支那海沿岸警備に従事しまし

た。

警備と作戦が任務ですが、今でもはっきり記憶に残っているのは清郷工作と蘭州攻略戦です。どの作戦にも私は軽機関銃射手として第一線で働き今でもそれを誇りにしています。

大隊本部は江蘇省宣興県宣興にあり、その地区の警備に任じていました。西上海を中心に東支那海沿岸警備に従軍していましたが、半年後、揚子江沿岸へと移駐しました。東支那海沿岸警備中は小さな小競り合いや討伐はありましたが、たいした損害もありませんでした。何より心強かったのは、中隊は千葉を中心にする兵隊の多かったことでした。

ここに声を大きくして叫びたいのは、清郷工作のことです。日本軍の占領地域は、軍の駐屯地と鉄道だけ、いわゆる点と線だけでした。農業国中国の底力は郷にあるのです。日本軍も国の行政機関、中国の郷村組織の後押しをして、郷村の獲得に協力しました。

一方、蒋介石軍と八路軍も都民の獲得に必死でしたが共産軍がジリジリ進出してきています。そのため日

本も第一期清郷工作、第二期清郷工作と引き続き清郷の安定に全力を傾注したのです。清郷は表面は服従または協力しますが、日本軍が去ると国民党または八路軍に通じるといった具合でした。

ときたま敵が迫撃砲、軽機関銃で夜襲してきます。日本軍が反撃すると、さーっとちりちりになって逃げます。これを追うと、一部は清郷部落に潜み隠れ、もう始末におえません。もとの部落民なのか敵兵が部落民に化けたのか見当もつきません。部落を焼き払ったら、周囲の部落を全部敵にまわしてしまいます。一軒一軒瓦潰しに捜すには兵の数は少なすぎるし、いつ、どこから弾がくるかわかったものでありません。

また、少数の兵で分哨に連絡を出すと狙撃されます。分哨から兵を出し狙撃した地点に着くころはもぬけの殻、そこで野良仕事でもしているのかもしれないと思うほどです。また国民党軍か八路軍かゲリラだか分かりません。清郷全体がゲリラになったらと思うとゾーッとしました。幸い、部落捜索でも家宅捜査でも我が軍にほとんど被害が無かったからよかったもの

の、深追いは禁物です。私も部落に入る時は同年兵と組になって警戒しながら探索したものです。壁から床下から、柱の陰から、いつ、どこから弾が飛んでくるか分かりません。

長居と欲は禁物です。「何か目ぼしいものは」などと欲をかくと負傷するのです。小哨から分哨に帰隊するとホッとします。「やれやれ無事帰ってきた」と溜息こそでませんが安堵のひとつが訪れます。

大きくは大隊単位の、小さくは小隊単位の清郷工作が行われますが、昼間は日本軍に協力するという面従腹背が続きます。今もって、清郷工作がどうだったのか私には分かりません。

昭和十九年の四月に入り衢州作戦が開始されました。衢州作戦は湘桂作戦の一環として行われ、数個師団の動員と、四カ月の月日をかけ占領しました。占領後主力は桂林へ向かいました。後で聞くとところによると桂林の飛行場に突入した部隊は中国軍に包囲され、全滅に近い打撃を受けたとか。衢州作戦でわが独歩第五十六大隊もそれ相応の苦勞をしました。攻撃の主力

は正規の精鋭師団でしたが、独歩大隊として、偵察なり警備の任を全うしました。

私も将校斥候の中に一回、下士官斥候の中に二回いられてもらい、つぶさに敵情を視察する機会に恵まれました。

作戦終了後わが大隊の主力は温州作戦に参加。小競り合いの後、これを占領しました。引き続き柳市地区を占領して温州作戦は終了をみました。柳市地区の確保・警備のため築城と陣地構築を始めました。

昭和二十年に入り瀬尾部隊長が満州に赴任、藤瀬部隊長が着任しました。昭和二十年三月に入り作戦中にもかかわらず独歩第五二五大隊が編成になり、豊田中隊も独立混成第八十九旅団独立歩兵第五二五大隊に編入になりました。引き続き地区確保並びに築城に励みました。

六月になり柳市地区を撤退、七月には温州沿岸要域から転進し寧海集結しました。温州―寧海を通じ光号作戦の準備と地区警備で毎日忙しい勤務でした。光号作戦はアメリカの大陸作戦迎撃と上海警備の

作戦です。

八月八日にいよいよ上海に向け出発しました。敵の艦上機の攻撃を避け夜間の移動でした。

そしてあの八月十五日、終戦の日を迎えたのです。

私の属した豊田中隊は別命を帯びていたのか、道に迷ったのか、本隊に遅れること数カ月で上海に到着、本隊に合流しました。終戦後、敵の襲撃もなく、変だと思いつながら夜行軍を続けていました。

上海に到着するや直ちに武装解除されました。しばらくしてから中国軍の指揮下に入り中国軍第二五大隊兵士の軽機関銃教育に当たりました。

昭和二十一年三月、本隊に復帰し、復員命令が出て、上海を出発しました。三月二十六日、博多港に上陸。陸軍兵長として復員し、善行証書並びに下士官適任証書を授与され、千葉の自宅に帰宅後は家でしばらく農業に従事しておりましたが縁あって高山すずと結婚、高山家に入籍しました。

農業と建築を営んでおりますが、消防副団長等を歴任、現在、町会会長に就任しております。